

みなさん、おはようございます。本校は2学期制を採っており、今日は後期の始業式、つまり折り返し点ということになります。本日は、城北祭の話から始めて、最後はアドラー心理学の「幸せを感じるための3条件」を紹介します

新型コロナウイルス感染症が広がってからのというもの、集団での活動が制限されているわけですが、それでもなんとか文化祭だけはやらせてあげたいということで、昨年も、一昨年も工夫をしながら開催しました。やまぎん県民ホールを借りての城北祭は、特に文化部や個人によるパフォーマンスが、年々レベルアップしていると感じます。素晴らしい舞台と素晴らしい聴衆の、この二つが芸術のレベルを上げるのだと実感しているところです。

サプライズゲストについては、城北祭の目玉になりつつありますが、もともとは2年前、コロナで楽しみしていたことがことごとく奪われた3年生のために、笑顔になれる時間をプレゼントしたいという思いから始まったものです。今年は実行委員の中で、ピアノ演奏家のハラミちゃんを呼んでほしいという声が上がっているということを知ったので、実はハラミちゃんに連絡を取りました。残念ながらスケジュールの関係で来ていただくことは叶わず、代わりにパワーパフボーイズがぎりぎりのスケジュールの中で調整してくださいました。

そのパワパフのリーダーを務めているAOさんですが、ダンスを始めたのは、大学でダンスサークルに入ってからとのことですから、何かを始めるのに遅すぎるということではないということなのだと思います。以前にも話したことがありますが、中学までは出来ないことを出来るようにする時期ですが、高校からは、自分の好きなことや得意なことを磨く時期だと考えます。好きなことも、得意なこともなかなか見当たらないという人は・・・勉強をしましょう。社会人になった教え子たちと久しぶりに会うと、口をそろえて「もっと勉強しておけばよかった」と言います。高校時代、それなりに勉強していたのと思うような人でさえ、その言葉を口にします。学びは人生に嘘をつかない、それはたくさんの教え子たちの人生を見ても確信できることです。

今はSNSという手段があって、数十年ぶりに教え子とつながることがあります。昨年4月、教え子からこんなメッセージをいただきました。

どうもご無沙汰しています。友達申請ありがとうございます。覚えていてくださって、嬉しかったです。私は、今東京に住んでいます。高校時代に先生にお借りした『メタルカラーの時代』という本の影響を受けて、東京理科大を卒業し、一級建築士になりました。日本でしばらく働いてから、海外で建築の仕事をしたり、日本語を教えたりしていました。途中、一橋大の大学院にも行ったのですが、今は子育てをしながら、できる範囲で働いています。また、カンボジアの子どもの教育支援も15年ほど続けていますが、学校の先生というのは本当にすごい仕事だなといつも思っています。長々とすみません。先生の影響を受けて、今元気にやっているとお伝えしたかったです。また、よろしく願います。

今は45歳ほどになる教え子です。ここに書かれている『メタルカラーの時代』という本のことは覚えていますが、それを彼女に貸したという記憶は残念ながらありませんでした。これは‘教師あるある’だと思いますが、かけた言葉を教師は忘れても、生徒の方はいつまでも覚えているということはよくあるものです。

そして、この夏、彼女の同級生と話をする機会があり、彼女がカンボジアに学校を作った

という事実を知りました。作ったというのは、建築士としてではなく、私財を投じてという意味です。あとで、ぜひ「カンボジア・愛センター」で検索して見てほしいのですが、今もその代表を務めており、Web ページにはこんな言葉があります。

初めてカンボジアを訪れたのは、1999 年。アンコールワットへの旅行でした。そこで、ゴミ山に行き、働いている子供達を見て、衝撃を受けます。ゴミの自然発火による煙の中、裸足や素手でゴミをあさる子供達。街中には、たくさんの物乞いの子供達がいて、ずっと話しかけてきましたが、ゴミ山の子供達は観光客である私には目もくれず、ひたすらゴミを拾い続けていました。私は彼らの姿を見てから、ずっと考え続けました。ゴミ拾いは体に悪いのではないか、親に言われ、勉強にも行けずにゴミ拾いをするのは、どんな気持ちなのだろうか、彼らのために何かできることはないだろうか。そして、2005 年、子供達の将来の可能性を少しでも広げられるように、子供達の教育支援の団体、愛センターを立ち上げました。2020 年 10 月、愛センターは 16 年目に入りました。今では、ほとんどの子が公立の学校に通いながら、愛センターに通ってきています。公立の学校では身につけられない深い知識、広い知識を身につけられる、先生が好き、友達がたくさんできた、外国人ボランティアと話せるのが楽しい、など、子供達が愛センターに通ってくる理由はさまざまですが、みんな、勉強が楽しい、勉強が好き、という点では一致しています。15 年間の私たちの歩みは、試行錯誤の連続で、歩みは決して早いものではありませんが、たくさんの支援者やボランティアの方に支えられながら、毎日子供達を授業に迎え入れることができています。これからも皆さんの力を借りながら、しっかり前に進んでいくつもりです。

こんな内容です。そして、その Web ページには、きらきらと目を輝かせて学ぶ子供たちの写真が溢れています。

これまで、城北祭の利益はユニセフなどを通じてこういった恵まれない子供たちの教育支援に使ってもらっていたわけですが、顔の見える形での支援の方が良いのではないかと考え、実行委員会と相談し、今年はこの「愛センター」に直接贈ることになりました。ありがとうございます。コロナということもあり、なかなか支援金が集まらなくなっているようで、たいへん喜んでおりました。そして、日本語を勉強している子供たちもいるとのことなので、いつか交流ができたらいいなと考えています。

さて、心理学者のアドラーは、人が幸せを感じる 3 つの条件を示しました。

- ① 自己受容 (100 点でなくても、ありのままの自分に OK を出すこと)
- ② 他者信頼 (自分だけではなく、他者にも OK を出せること)
- ③ 他者貢献 (誰かの役に立っていると、自分の価値を実感すること)

この 3 つです。例えば、城北祭のステージで、「ダンスはあまり得意じゃないけど、なんとか踊れたと自分に OK を出す、これが自己受容。城北祭のパフォーマー集合でクラシックバレエやブレイクダンスを見て、城北っていろんな人がいてすごいと思う感情が他者信頼。そして、城北祭の売り上げをカンボジアに届けて支援をする、これが他者貢献というわけです。

人は誰でも、心がざわつくときがあります。どうして自分だけ不幸なのだろうと落ち込むことがあります。そんな時は、この 3 つの柱のバランスが崩れていないか点検しましょう。特に 3 年生は、これから自分の進路と向き合う時間が増えます。ぜひこの 3 つの柱を大切にしながら、残りの高校生活を充実させてください。(R4.10.1 令和 4 年度後期始業式式辞)